

令和4年度使用
中学校教科用図書調査研究答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

目 次

社会（歴史的分野）	1
-----------	---

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	社会（歴史的分野）
発行者	2 東書

（社会：歴史） 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東書	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は9点あり、古代1点、中世2点、近世3点、近代3点の内訳となっている。近世・近代での出典数が多い。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「第1章 歴史へのとびら」の「2節 身近な地域の歴史」において、調べ学習の「テーマ設定」、「調査」、「考察」に向けての手順とポイントを示している。
	観点 3	・総ページ 304、歴史との対話 12、古代 44、中世 36、近世 50、近代 102、現代 32、その他 28
	観点 4	・（「近代の日本」での掲載数）写真(133)・絵図(85)・地図(33)・図表・グラフ(27)・文書資料(44)・年表(5)・人物(56)
	観点 5	・「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。ア. 「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四つの視点を示している。イ. 文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。ウ. 意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。
2 2 5 自由社	観点 1	・国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は8点あり、古代1点、近世1点、近代4点、現代2点の内訳となっている。
	観点 2	・課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫として、「序章 歴史のとらえ方」に「第3節 地域の歴史を調べる」を設け、大阪府堺市を4つのグループに分かれて、調査を行ったまとめの文章が掲載されている。
	観点 3	・総ページ 308、歴史との対話 12、古代 50、中世 36、近世 44、近代 106、現代 34、その他 26
	観点 4	・（「近代の日本」での掲載数）写真(85)・絵図(78)・地図(29)・図表・グラフ(16)・文書資料(58)・年表(5)・人物(42)
	観点 5	・「中世とはどんな時代だったのだろうか。」という問いに対して、4つの問題を解き、自分の考えを文章にまとめる。ア. 歴史用語を3文で説明する「歴史用語ミニ辞典」をつくる（院政、守護・地頭など）。イ①. 時代比較の問題を行う（平氏政権と鎌倉幕府など）。イ②. 人物比較の問題を行う（北条時宗と足利義満の中国とのかかわり方の違い）。ウ. 「ひとこと」作文を作る（「中世はひとことと言うと『〇〇』の時代だった。」この「〇〇」を埋めた上で200字以内の作文を作る）。